

# 一般財団法人 印刷図書館 2022年度 事業計画書

自 2022年4月 1日

至 2023年3月31日

## 概況

2020年度に引き続き、2021年度も「With コロナ」「ニューノーマル時代」として、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受ける1年となりました。度重なる緊急事態宣言や感染者の急激な増加により、産業界全体に深刻な影響を及ぼしています。印刷業界においてはコロナ禍による国内需要低迷、世界的な原燃料価格の高騰、物流費や人手不足による人件費の上昇や印刷資材の値上がりなど、その影響は多大です。

このような深刻な情勢の中、印刷図書館におきましては前年に引き続き制約を受けての運営となりましたが、アフターコロナ後の世界を見据え、業界復興の一助となるべく、印刷業界における唯一の専門図書館として果たす、その役割を強く認識し、整備充実に努め、日本印刷産業連合会や外部関連機関との連携強化を継続し、図書館の活性化を図ってまいります。

## 事業計画

### I. 図書館基本事業

#### (1) 図書館運営事業

- ・ 専門図書館としての一般公開及びサービス
- ・ 図書・資料の収集、整理
- ・ 利用者への蔵書の紹介・検索、情報の提供
- ・ 関連機関との相互協力

#### (2) 広報活動事業

- ・ 受入れ資料のデータベース化
- ・ インターネットへの蔵書データの更新作業
- ・ ホームページを通しての新刊情報の紹介

- ・ホームページを通しての財団活動報告
  - ・「印刷図書館コレクション」を活用した周知活動
- (3) その他の事業
- ・所蔵する印刷文化財の貸出等

## II. 重点テーマ

### 1. 専門図書館として資料保存環境の見直し

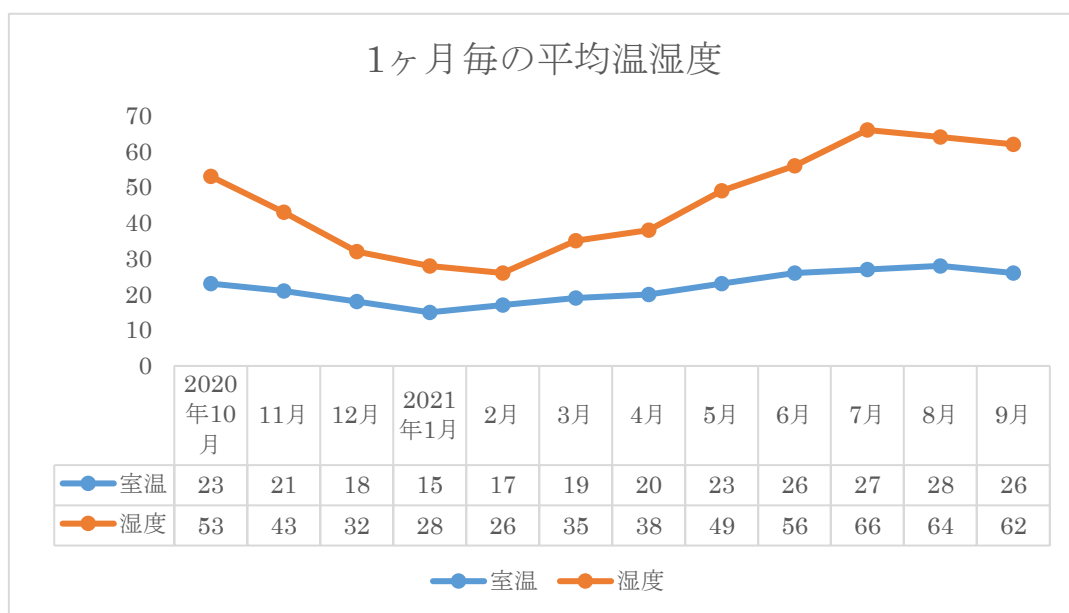
印刷図書館には近代印刷産業の黎明期から、現代の多様化する印刷産業の活動を俯瞰的に閲覧できる150年分の史料が保管されています。明治時代の活版見本帳など、一般図書館にはない貴重な印刷文化資料を多く所蔵しており、「印刷の学び場」としてその多くを一般公開し、実物を手に取って見ることが出来ます。そうやって利活用を進めながら、未来へと印刷文化を継承していくためには所蔵する資料の保存方法を見直す必要があります。

現在、コロナ禍の影響もあり、デジタルメディア化の波はより加速し、スマートフォン一つで様々なコンテンツを利用できるようになってきています。しかしインターネットが普及する前の古い情報を探し出し、利用するためには、おおもとなる情報そのものが長期的に保存されていなければなりません。そのためには、デジタル（データ）とアナログ（紙）を併用していくことが重要となってきます。

印刷図書館では、長期保存向けの簡易ブックカバーや保存箱を活用して、長期的な資料保存の推進を図っていくと同時に、書籍・文書を保管する上での理想的な環境（摂氏温度18～22度、相対湿度40～60%の空間）実現に向けて、保存環境の見直しを目指しています。

2020年9月より閲覧室に導入した温湿度計の記録より、夏場（2021年6月～9月）の平均湿度は62%、一日毎の平均記録においては最高値で71%（7月）という日もあり、夏場は高湿度であることが判明しました。

また、書庫の資料にカビが発生したこと、夏場冬場の湿度状況を専門業者に質問したところ、乾燥よりも湿度対策を重視するべきという見解をもとに、今年度は書庫内の夏場における温湿度状況を把握し、湿度対策を中心に保存環境の改善を図ってまいります。



## 2. 資料の修理・保存活動における方針の策定

資料の長期に渡る保存については、2017年度に結成された「将来展望検討プロジェクト」で、貴重資料の保存方法の見直しや資料の複製について検討を行いました。この内容に基づき、資料保存の専門家・有識者の意見を参考にし、印刷図書館として明確な資料保存に関する指針を取り決めていきます。所蔵している過去の座談会などの音声テープやビデオ資料、明治～昭和初期の貴重な資料（印刷雑誌含む）の保存方法の方向性を定め、実状に基づいた計画を考案し、資料の保存に努めていきます。

## 3. 図書館の外部向け広報活動の強化

コロナ禍により、2020年度の入館者数は175名と過去最低水準となり、2022年2月までの利用者数は172名と、現時点で同じ時期と比較して1割程回復していますが、維持会員数は2020年度の105社から2021年度は100社へと減少を続けております。そのため来館者数増加を目指し、より積極的な広報活動をしていく必要があります。

その一環として、まず印刷図書館のホームページ機能の拡張を図ります。問い合わせ手段を電話・FAXのみとしてきましたが、メールでも対応できるようにお問い合わせフォームを設置します。また利用者のニーズを把握するために蔵書管理システムにて、検索用語のランキングが分かるようにします。その他にも、2017年に更新終了した「印刷図書館倶楽部ブログ」を再稼働させます。更新終了年度までは「印刷図書館倶楽部」の会員による寄稿記事、月例会の報告などが主な掲載内容でしたが、再稼働後は印刷図書館

の新刊・蔵書の案内、イベントの告知、図書館職員による印刷に関するミニコラム等、印刷図書館主導の情報を発信していきます。

さらに本年度に引き続き、2022年度も日本印刷産業連合会会員10団体および関連団体等が主催する研修会・セミナー参加者に対し印刷図書館のリーフレットの配布・紹介のお願い、全国カタログ展の受賞作品の期間限定展示など、PR活動の強化に努めてまいります。

#### 4. 図書館と関連機関との連携強化

印刷図書館への関心・利用度を高めるために、日本印刷産業連合会および10団体、その他関連団体等のネットワークの提携・協力関係を構築し、図書館活動の活性化につなげていきます。

2022年度におきましても、印刷図書館と「印刷博物館」とで、「印刷関連専門図書館交流会」を開催し、テーマを決めての勉強会・情報交換や関連機関への見学会などを計画しています。

以 上